平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人筑波技術大学

１ 全体評価

筑波技術大学は、聴覚・視覚障害者のための高等教育に関する我が国の中心的役割を果たすことを基本的目標として、社会自立できる産業技術・保健科学・情報保障学の専門職業人を養成することを目指している。第３期中期目標期間においては、障害や専門性に即したアクティブラーニングの手法によりグローバル社会に適応できる人材を育成するとともに、聴覚・視覚障害教育分野に関する国際的水準の研究を展開し、国内外の研究をリードすることに加え、障害者の教育、支援に関する知見を広く国内外に発信し、障害者の能力向上と社会のバリアフリー化、ユニバーサル化に寄与し、障害者の能力を十分発揮できる社会の実現に貢献することを目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、機能強化構想の実現に向けた施設設備の整備や障害者スポーツにおける情報保障技術の提供に取り組むなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　障害学生の障害特性及び発達特性に即した教育を行うため、臨床実習を受け入れている外部医療施設の指導者が授業や技術指導に役立てるよう、配慮事項等を理解しやすく記載する「見え方シート」を作成している。今後は就職活動等に活用できるよう、内容の充実に向けて取り組んでいる。(ユニット「障害学生の障害特性及び発達特性に即した教育の推進」に関する取組)

○　聴覚障害学生を積極的に支援している大学・教育機関において、全国の大学に対する相談支援サービスを提供していくため、大学が事務局を担う日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の組織改編や個々の大学・機関からの相談に応じたコンサルティング提供を行っている。また、よりきめ細かな支援が提供できる事例について、連携大学・機関の教職員とともに共同でコンサルティングを提供できるパイロット事例を構築している。(ユニット「障害者差別解消法時代に対応した障害学生支援拠点の形成とネットワーク構築」に関する取組)

○　東京オリンピック・パラリンピックに向け、ブラインドサッカーを中心とした視覚障害者の選手育成及び医・科学的サポートを行うため、ブラインドサッカー日本代表合宿やイングランド遠征にスタッフを派遣している。また、小学校・高等学校及び特別支援学校向けに審判講習会や大会を含んだボッチャ教室を開催するなど、東京パラリンピックに向けた視覚障害者の選手育成に取り組んでいる。(ユニット「共生社会実現に向けた障害者スポーツの推進」に関する取組)

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載20事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載４事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成 29 年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 機能強化構想の実現に向けた施設設備の整備

各部屋内への発光フラッシュ設置やドア前の点状ブロック設置、スライドドア設置、出入口の段差解消等を行い、学生の安全・安心な研究環境を確保している。また、共同研究プロジェクト等を効果的に進めるための執務室を配置し、大学の教育、研究及び社会貢献に係る取組を推進している。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 学生の就職・就労支援に向けた取組

企業等を対象とした大学説明会（72社）や情報交換会（34社）、視覚障害学生雇用セミナー（40社）を実施するとともに、学生を対象とした企業説明会の実施や学生のためのキャリア教育や就職模擬試験を実施している。また、全国５ヵ所のハローワーク（宮城、東京、愛知、大阪、滋賀）に就職委員が訪問したり、大学等を卒業した聴覚障害者の就労に関する産学官連携シンポジウムを開催（参加企業31社36名）し、産学官連携等による職域開拓に向けた取組を実施している。

○ 「手話フォンBOX」の設置

聴覚障害者がテレビ電話を通じて手話通訳者とやり取りすることにより、健聴者と一人で電話ができる「手話フォン」の公衆電話ボックスを公益財団法人日本財団の支援を受けて設置している（全国２番目）。１か月平均の利用実績は50回であり、学生の生活支援となっている。

○ 障害者スポーツにおける情報保障技術の提供

2020年東京パラリンピック開催に向け、スポーツ参加、観戦等における視覚障害者・聴覚障害者に対する情報保障及び情報支援環境に関する技術調査やサッカークラブ大宮アルディージャと障害者のスポーツ参加及び観戦における情報交換を実施するなど、大学が有する障害者の支援に関する知見を発信している。